駒岡清掃工場更新事業環境影響評価事後調査（供用後）
現況調査報告書（動物）

1.調査目的

本調査の目的は、札幌市環境影響評価条例第 26 条に基づき作成した「駒岡清掃工場更新事業環境影響評価書」（以降「評価書」とする。）の「第 8 章　事後調査の計画」に示す「施設の稼働」に伴う事後調査（動物）の実施である。

なお、本報告は、供用開始後 1 年目の現況調査の結果を取りまとめたものである。

2.調査項目

調査項目は、表 2-1 に示す。

表 2-1　動物　調査項目

調査項目	調査内容
ヒナコウモリ科	バットディテクターを用いた任意観察
エゾシカ	センサーカメラを 1 年間設置し、侵入状況を観察
希少猛禽類、クマゲラ等	定点観察及び任意観察

3.調査期間

調査期間は、表 3-1 に示す。

表 3-1　動物　調査期間

調査項目	調査期間
ヒナコウモリ科	令和 7 年（2025 年）8 月 26 日
エゾシカ	令和 7 年（2025 年）8 月 1 日～ 令和 8 年（2026 年）7 月 31 日
希少猛禽類、クマゲラ等	令和 8 年（2026 年）4 月 16 日、17 日 5 月 21 日、22 日 6 月 11 日、12 日

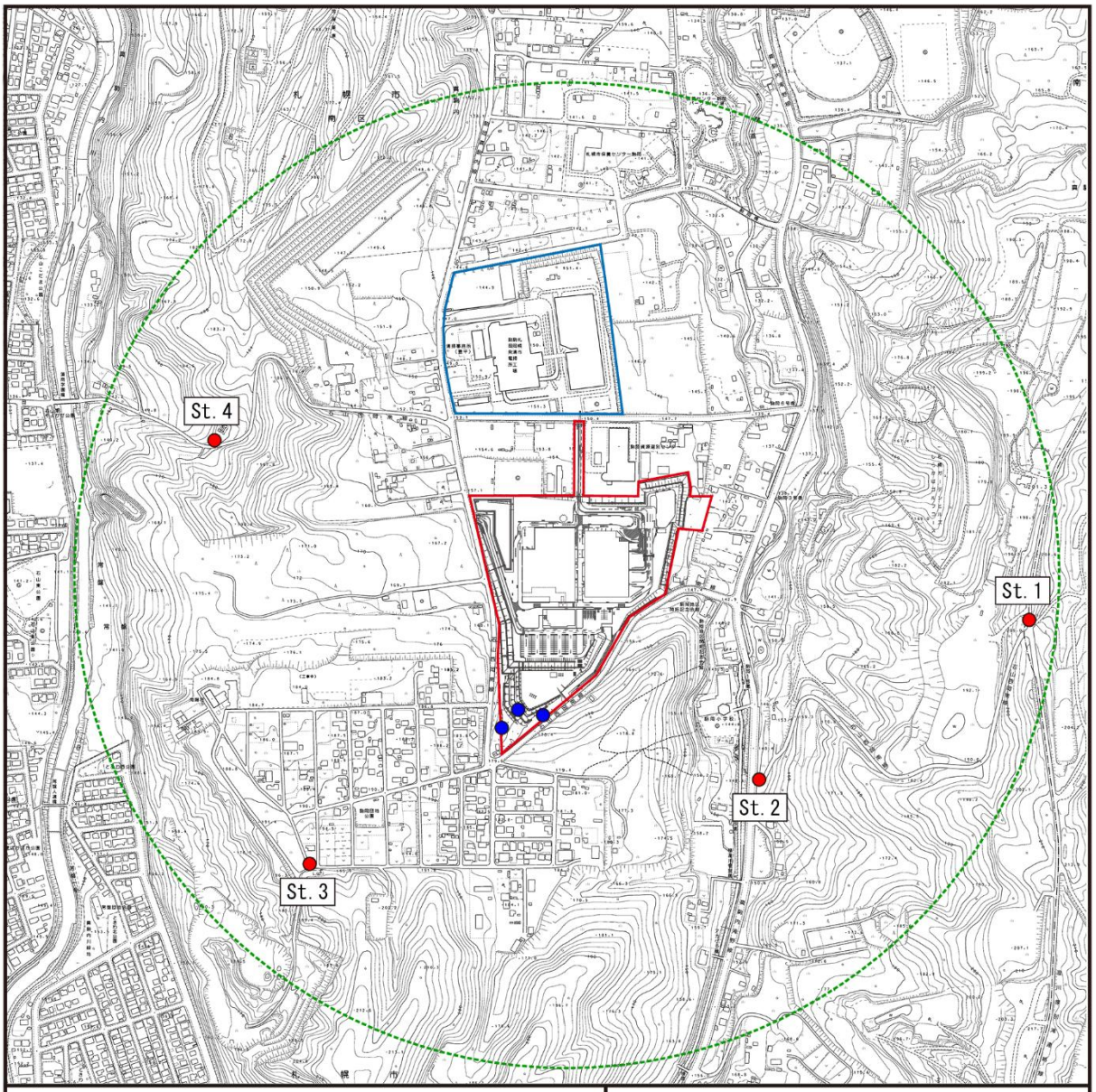
4.調査地点

調査地点は、図 4-1 に示すとおりである。

ヒナコウモリ科の任意観察は調査範囲内を任意に移動しながら実施した。

エゾシカはセンサーカメラを計 3 地点設置したほか、駒岡清掃工場敷地内を踏査し、痕跡の確認を行った。

希少猛禽類、クマゲラ等の定点観察は計 4 地点とした。なお、任意観察は調査範囲内を任意に移動しながら実施した。



凡　例	
	旧駒岡清掃工場
	事業実施区域
	ヒナコウモリ科調査　調査範囲
	エゾシカ調査　カメラ設置位置
	鳥類調査定点位置

図 4-1　動物調査位置図

1:10,000
0　250　500m

5. 調査結果

5-1. ヒナコウモリ科

現地調査の結果、図 5-1-1 に示すとおり、6 地点でヒナコウモリ科が確認された。ヒナコウモリ科は、事業実施区域周辺で、事業実施前と同程度の地点数で確認された。また、施設稼働後は事業実施区域内でヒナコウモリ科は確認されなかった。

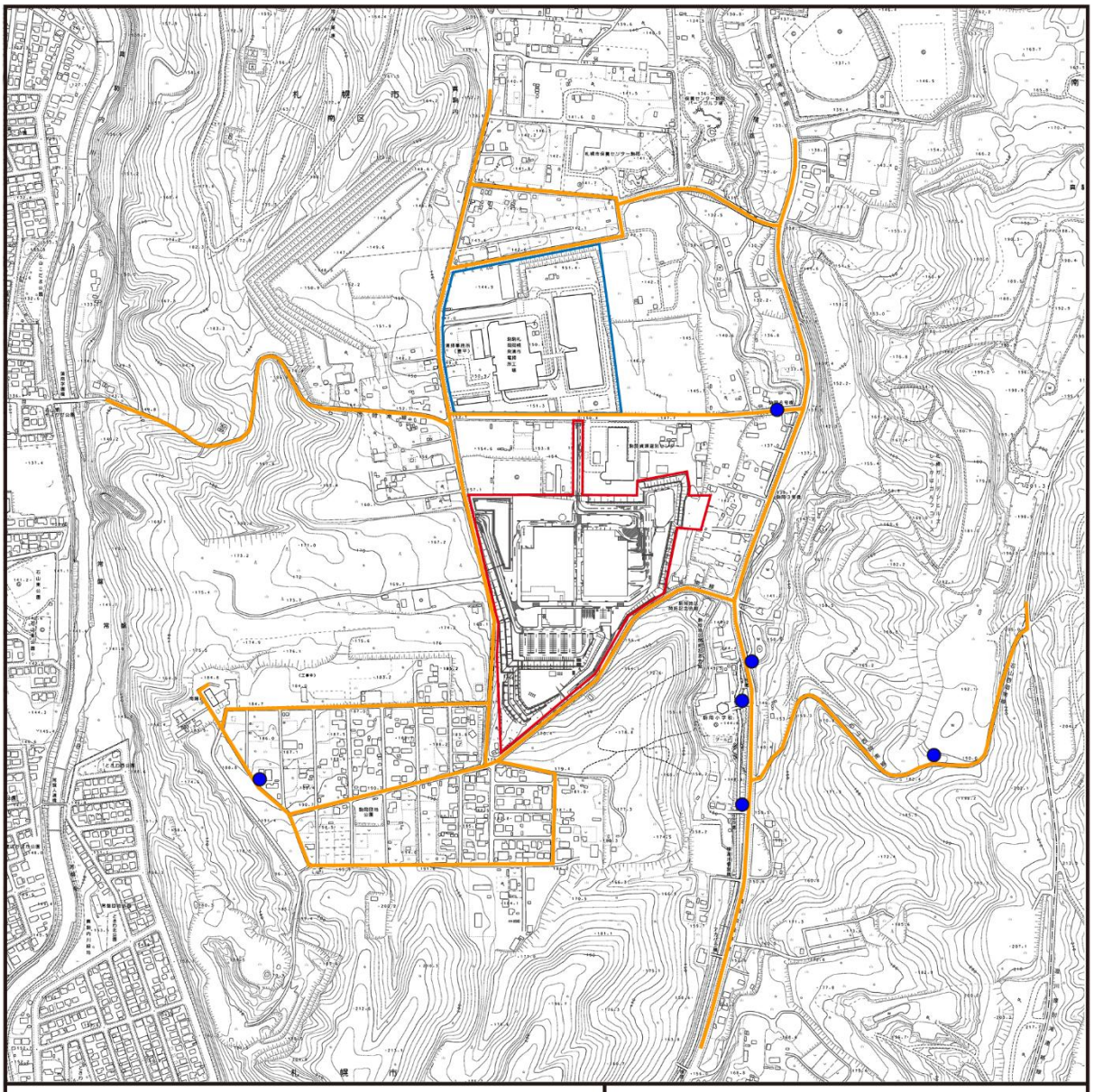
ヒナコウモリ科は施設に誘引されることなく、引き続き周辺を採餌環境として利用していると考えられることから、現時点では施設稼働に伴う影響は小さいと考えられる。

なお、事後調査結果は、供用開始後 3 年目及び 5 年目の調査結果と合わせて、総合的に評価する。

表 5-1-1　現地調査で確認された調査対象種（ヒナコウモリ科）

目名	科名	種名	選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科							
		（ヤマコウモリ）					VU	Nt	VU
		（ヒナコウモリ）						Nt	

注 1：観察されたヒナコウモリ科は、鳴き声の周波数からヤマコウモリ又はヒナコウモリの可能性がある。
注 2：注目すべき動物種の選定基準及び各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。
①：「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）
天然:天然記念物、特天:特別天然記念物
②：「北海道文化財保護条例」（昭和 30 年北海道条例第 83 号）
③：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）
国内:国内希少野生動植物種 特国:特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
④：「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」（平成 25 年 北海道条例第 9 号）
指:指定希少野生動植物種 特:特定希少野生動植物種
⑤：「環境省レッドリスト 2020(哺乳類)」（令和 2 年 環境省）
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、VU:絶滅危惧Ⅱ類
NT:準絶滅危惧、LP:絶滅のおそれのある地域個体群、DD:情報不足
⑥：「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版(2016 年)」（北海道 平成 28 年 12 月）
Ex:絶滅、Ew:野生絶滅、Cr:絶滅危惧 IA 類、En:絶滅危惧 IB 類、Vu:絶滅危惧Ⅱ類
Nt:準絶滅危惧、N:留意種、Lp:絶滅のおそれのある地域個体群、Dd:情報不足
⑦：「札幌市版レッドリスト 2016」（平成 28 年 札幌市）
EX+EW:今見られない、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類
VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意



凡　例	
	旧駒岡清掃工場
	事業実施区域
●	ヒナコウモリ科確認位置
———	走行ルート

図 5-1-1　ヒナコウモリ科確認位置図

1:10,000

0　250　500m

5-2. エゾシカ

センサーカメラによる調査の結果、エゾシカは春から秋にかけて多く撮影されたが、積雪に伴って減少し、1 月から 3 月にかけては全く確認されなかった。痕跡については、センサーカメラを設置した保全緑地周辺では多数確認されたものの、その他のエリアでは少数であった。また、工場敷地内の植栽に対する食害は少なかった。

事業実施前から樹林地であった保全緑地では、当時と同様にエゾシカが見られ、季節に伴う緑地の利用状況の変化も同様の傾向を示していた。また、植栽にはエゾシカが餌として好む樹種は使用されておらず、植栽エリアを利用した痕跡も少なかった。

エゾシカが施設に誘引されている様子や目立った行動変化は確認されなかったことから、現時点では施設稼働に伴う影響は小さいと考えられる。

なお、事後調査結果は、供用開始後 3 年目及び 5 年目の調査結果と合わせて、総合的に評価する。

5-3. 希少猛禽類、クマゲラ等

現地調査で確認された種を表 5-3-1 に、そのうち環境省レッドリストや北海道レッドリスト等に掲載されている注目すべき種は表 5-3-2 に、確認位置は図 5-3-1 に示す。

事業実施前から確認されていた希少猛禽類であるハイタカ及びクマゲラは、供用開始後も広い範囲で複数回確認された。ハイタカは探餌やハンティング、クマゲラは採餌の様子が確認された。

希少猛禽類及びクマゲラ等は、引き続き事業実施区域周辺を採餌・生息環境として利用し続けていることから、現時点では施設稼働に伴う影響は小さいと考えられる。

なお、事後調査結果は、供用開始後 3 年目及び 5 年目の調査結果と合わせて、総合的に評価する。

表 5-3-1　現地調査で確認された動物種（鳥類）

目名	科名	種名
カモ	カモ	オシドリ
		マガモ
キジ	キジ	タイリクキジ
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ
		アマツバメ
カッコウ	カッコウ	ツツドリ
ハト	ハト	キジバト
		アオバト
チドリ	シギ	ヤマシギ
	カモメ	オオセグロカモメ
ペリカン	サギ	アオサギ
タカ	タカ	ハチクマ
		ハイタカ
		オオタカ
		トビ
		ノスリ
キツツキ	キツツキ	アリスイ
		コゲラ
		アカゲラ
		オオアカゲラ
		クマゲラ
		ヤマゲラ
スズメ	モズ	モズ
	カラス	カケス
		ハシボソガラス
		ハシブトガラス
	シジュウカラ	ヒガラ
		ヤマガラ
		ハシブトガラ
スズメ	シジュウカラ	コガラ
		シジュウカラ
	ヒヨドリ	ヒヨドリ
	ウグイス	ウグイス
		ヤブサメ
	エナガ	エナガ
	ムシクイ	センダイムシクイ
		オオムシクイ
	メジロ	メジロ
	キクイタダキ	キクイタダキ
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ
	キバシリ	キバシリ
	ツグミ	トラツグミ
		クロツグミ
		ツグミ
	ヒタキ	オオルリ
		キビタキ
	スズメ	ニュウナイスズメ
	セキレイ	キセキレイ
		ハクセキレイ
	アトリ	イカル
		ウソ
		ベニマシコ
		カワラヒワ
		ベニヒワ
		マヒワ
	ホオジロ	ホオジロ
		アオジ
10 目	27 科	57 種

表 5-3-2　現地調査で確認された注目すべき動物種（鳥類）

目名	科名	種名	選定基準							確認状況
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
カモ	カモ	オシドリ						Nt	NT	2 例
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ					VU			1 例
		アマツバメ					NT			1 例
チドリ	シギ	ヤマシギ						N	DD	1 例
	カモメ	オオセグロカモメ					EN	Nt		1 例
タカ	タカ	ハチクマ					DD	Nt	NT	3 例
		ハイタカ					NT	Nt	NT	7 例
		オオタカ					NT	Nt		1 例
キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ						Dd	N	4 例
		クマゲラ	天然				NT	Vu	VU	8 例
5 目	6 科	10 種	1 種	なし	なし	なし	7 種	8 種	6 種	

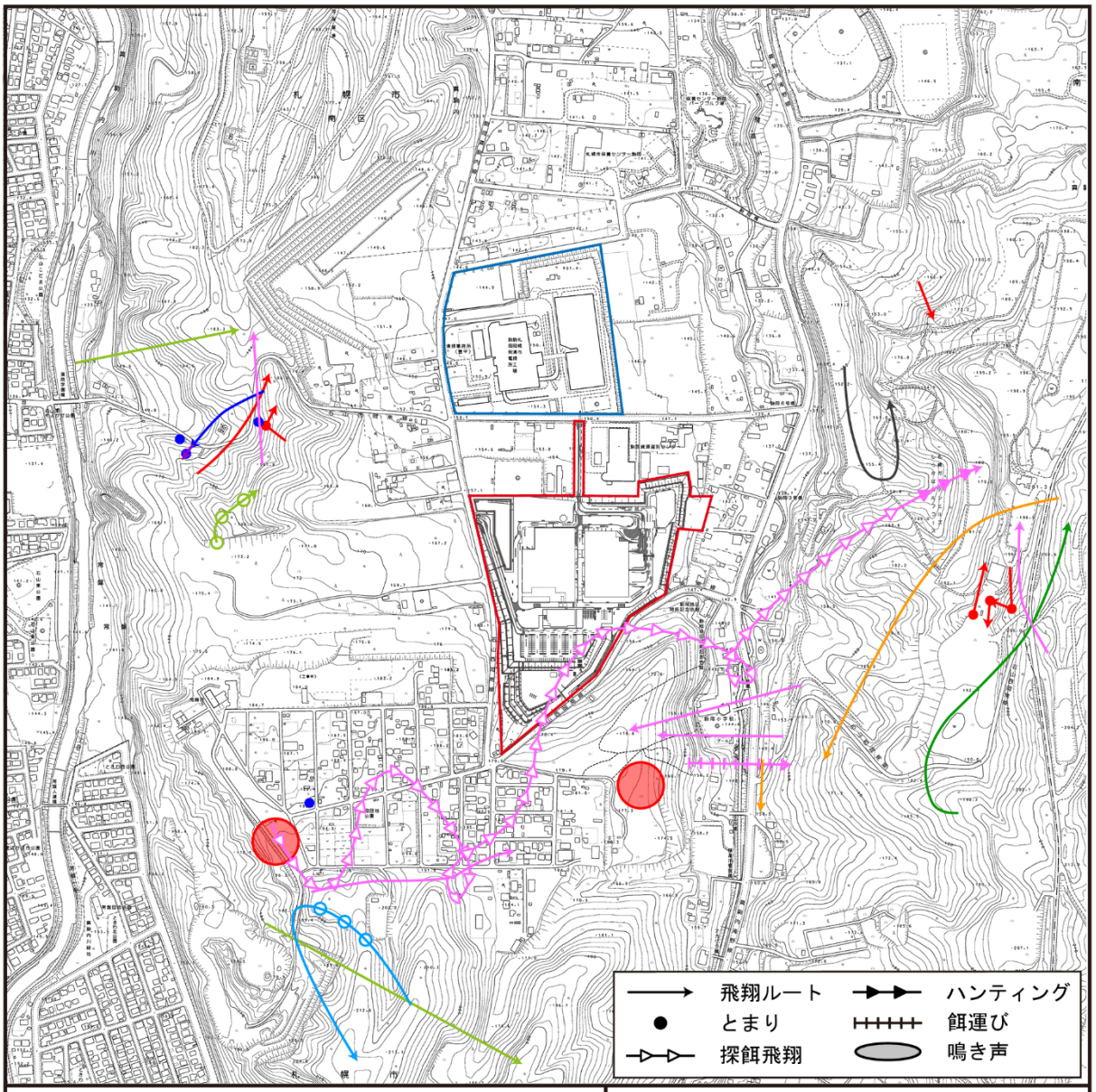
注：注目すべき動物種の選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。
①:「文化財保護法」（昭和 25 年　法律第 214 号）
　天然:天然記念物、特天:特別天然記念物
②:「北海道文化財保護条例」（昭和 30 年　北海道条例第 83 号）
③:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年　法律第 75 号）
　国内:国内希少野生動植物種、特国:特定国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
④:「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」（平成 25 年　北海道条例第 9 号）
　指:指定希少野生動植物種　特:特定希少野生動植物種
⑤:「第 5 次レッドリスト（鳥類）」（令和 8 年　環境省）
　EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、
　NT:準絶滅危惧、LP:絶滅のおそれのある地域個体群、DD:情報不足
⑥:「北海道レッドリスト改訂版」（平成 29 年　北海道）
　Ex:絶滅、Ew:野生絶滅、Cr:絶滅危惧 IA 類、En:絶滅危惧 IB 類、Vu:絶滅危惧Ⅱ類、
　Nt:準絶滅危惧、N:留意、Lp:絶滅のおそれのある地域個体群、Dd:情報不足
⑦:「札幌市版レッドリスト 2016」（平成 28 年　札幌市）
　EX+EW:今見られない、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類
　VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意



餌を持ったハイタカ



クマゲラ（背景：現駒岡清掃工場）



凡　例	
	旧駒岡清掃工場
	事業実施区域
	オシドリ
	ハリオアマツバメ
	アマツバメ　※図面外で確認。
	ヤマシギ
	オオセグロカモメ
	ハチクマ
	ハイタカ
	オオタカ
	オオアカゲラ
	クマゲラ

図 5-3-1　注目すべき動物種（鳥類）確認位置図

N

1:10,000

0　250　500m